

2 0 2 5 年 1 0 月 2 日
日 本 銀 行 大 阪 支 店

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西景気の総括判断を、「一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している」として据え置きました。各国の通商政策を巡る不確実性は高いものの、引き続き、個人消費や設備投資など堅調な内需が関西経済全体の緩やかな回復を支えていると判断しています。以下、特徴的な動きについて説明します。

第一に、企業の景況感は、全体としてみれば良好な水準を維持しています。各種コスト高などが下押し要因となっている一方、価格転嫁の進捗や旅行者数の増加などが上押し要因として寄与しています。この間、各国の通商政策を巡って、駆け込み的な輸出とその一巡といった動きがみられたものの、企業の景況感等に対する足もとの影響は、総じてみると限定的なものとなっています。ただし、不確実性の高い状況が続くもとで、先行きに対する企業の警戒感がみられていますので、今後の動向を注意深くみていく必要があると考えています。

第二に、設備投資は増加しており、通商政策を巡る不確実性が高い状況下にあっても、堅調さを維持しています。9月短観をみると、2025年度の企業の設備投資計画は、前年度を1割ほど上回る計画値となっています。引き続き、成長分野における能力増強投資や研究開発投資、生産性向上を企図した省力化投資などに、多くの企業が取り組んでいます。また、万博後も見据えたインフラ整備や都市再開発なども進んでいます。ただし、先行きに対する警戒感のほか、人手不足や各種コスト高などから、企業の前向きな投資スタンスに変化が生じないか、丁寧にフォローしていきたいと思います。

第三に、個人消費は、サービス消費を中心に緩やかに増加しています。百貨店販売は高水準で推移するなか、阪神タイガースの優勝セールも活況となりました。サービス消費では、インバウンド需要に加え、盛り上がりをもせる万博の効果もあって交流人口が増加すると、外食が堅調に推移しているほか、旅行も底堅く推移しています。他方、自動車販売や家電販売額は、横ばい圏内となっています。スーパーなどでは、堅調なハレの日の消費の一方で、節約志向もしくはメリハリの効いた消費の動きが続いています。雇用・所得環境の緩やかな改善がみられているもとで、消費活動の堅調さが持続していくのか、注意深く点検していきたいと思います。

先行き関西経済の動向を点検していくにあたっては、各国の通商政策等の動きやその影響を受けた海外経済の先行きやそれらを巡る金融資本市場の動きのほか、当地金融環境の変化の影響について注意深くみていく必要があります。

以 上